

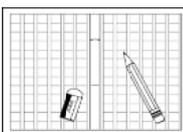
## 特集 平和への願い

安倍首相が「任期中の改憲」を企てる中、憲法・戦争・平和への思いを綴っていただきました。

### 戦争は何のためにするの？

私の長男が小学3年生の時、夏休みの宿題で「親から聞いた戦争」を感想文に書いた。

私の体験を聞いた長男は「戦争は残酷だ。満州という国から日本に引き揚げる途中避難していた所で、小さかった母の妹2人と、ぼくのおばあちゃんまで重い病で死んでしまった。残された母たち姉妹4人は、親戚のおじさんが食べ物もない大変な時にお世話してくださり、日本までつれてきてくれたそうです。戦争は人間の欲からはじまるのだと思います」と、こんな文章だった。担任のコメント「大きくなったら絶対戦争しない国にするようがんばろうね」。



私はこの感想文は大切に通知票にはさんで保管しておいたが、何回かの引っ越しで行方不明になっ

た。残念。

私の父もシベリア抑留者だった。満州開拓地から昭和20年4月招集され、終戦後2年間シベリアで飢えと寒さの中、食料は主に5センチ角の黒パンと、容器に半分の薄いスープだけで、作業は決まって夜じゅう重労働。それで父はすっかり体調を悪くして、何日か入院もした。完全に快復しないまま復員して来た。昭和22年8月22日、ちょうど私たちが引き揚げて1年後のことでした。母や二人の幼い妹が亡くなったことも知らずに、その時の父の落胆した姿は思い出しても胸が痛む。

そのあとは父・娘共々3年間、父の実家で暮らし、祖父が元気でいてくれたおかげで家も建ててもらい、苦しい生活ながら、みんな一生懸命生きるため、お世話になった皆さまに感謝しながら暮らした。

(西玉垣 渡辺トミさん 80歳)

### 平和への思い

私は安保法制や憲法改正には絶対反対で、反対デモにも参加したことがある。しかし、今回憲法改正草案の説明の記事を読んで驚いた。まだまだ私は憲法改正の本当の内容を理解できていなかった。日本は戦争をする国になってしまうことだけでなく、表現の自由がなくなること、国家と国民の立ち位置が大きく変わってしまうこと、社会保障に使うお金を減らされてしまうことなど、憲法改正によって私達の生活はこれほどまでの大きな影響を受けてしまう。こんな恐ろしいことを私は今まで知らなかった。知らないでいるということの怖さを改めて感じた。



(M.Kさん 22歳 学生)

### 戦争と平和を思う

戦争が終わって71年が過ぎ、今は戦争体験者が少なくなってきました。私は昭和12年生まれで、終戦時は小学校2年生であり、記憶があまりないが、当時は食糧難の時代でもあった。集団疎開の子どもたちは、食べ物がなく腹を空かせていた。幸い私は農家の出で、腹を空かしたことはあまりなかったが、食事はすいとんやサツマイモ、雑炊が主食であつたと記憶している。また学校の校庭や家の庭は、サツマイモ畑で遊べるところが少なかった。

3年前、広島市の平和公園へ

(南玉垣町 Mさん 78歳)

行く機会があつたので、原爆ドームや資料館を見学したが、原子爆弾の被害状況を見て、もう二度と戦争はしてはいけないと思いました。戦争は子どもや婦女子が被害をこうむるだけです。オバマ大統領が5月27日に広島市を訪問され、原爆ドームや資料館を見学されました。世界各国の首脳が平和公園を訪問され、原爆の悲惨な実情を知ってもらい、平和の大切さを実感していただければと思います。



(つづき)

## 憲法と私

私は1946年、憲法発布の年に生まれました。新憲法を兄弟のように感じながら育って70年。今年古希を迎えました。

学校では先生方が憲法について熱く語ってくださいました。「日本の国から武器を持って外国に行くことは永久にない」「誰でも人間らしく生活することが保障されている」「国の主人公は私たちが」として、このすばらしい憲法を簡単に変えられないように、国会議員の3分の2以上の賛成がないと改訂の発議ができない、と言うことも。

この憲法に守られてずっと平和が続くと思っていたのに、昨今のきな臭いことといたら。国会

では与党が3分の2を占めてしまいました。こんな事態になったのも、約20年前の選挙法改定から。あの時、今日を見通して反対したのは共産党。先の先まで見通す力が共産党にはある

んだなあ。と感心ばかりではいられないのですが、赤旗を読んでいれば正しい情勢を知ることができるのは確かです。これからも憲法を護る立場で指針を示してくれると思います。傘寿も卒寿も白寿も今の憲法と共に迎えたいと願っている私です。



(郡山町 羽田徳子さん)

## 憲法9条と25条は私の宝

1945年夏、津の大空襲で父の実家のある高野尾まで私たち(母、兄弟、私6歳)は必死で逃げて8月15日の終戦を迎えた。戦後は、大きなリュックサックをさげて京都や大阪から買い出しに来る人たちや疎開者で、村の中には大勢の人がいた。翌年、緊張した重苦しい戦中の空気から解放されて小学1年生となり、とても嬉しかった。物資は乏しく(生活用品は配給制、食べ物は農家だったので何かはあった。)小言は禁物、何でも食べた。今までの教科書は使えず、先生の手作り、学校に来ない(来られない)子がいて、午後は先生と毎日のように訪問に行った。友達は京都や大阪からの疎開の子、親と離れて知り合いの家に来ている子もいた。小学校のグラウンドは解放されていたので、夕暮れ遅くまで皆で遊んだ。家の中にいた記憶はほとんどない。小学校2年生になって、放課後先生がよくピアノを弾いていた。先生の自作・・・?歌を教えてもらった。平和、平和、新憲法・・・の部分だけ強烈に覚えている。この歌を

通して、戦争はもうしないと決めたということを知った。「選挙で誰を入れたらええの?」と、まわりの女性たちが、初めて選挙権を得て大騒ぎをしていたのを覚えている。

警察予備隊が出来て自衛隊になると、軍隊と違うのか憲法違反と違うのか等々世の中が変わっていく様子を、父やまわりの大人たちがいつも話しているのを心配しながら聞いていた。4年生になって仲良しだった友達も京都や大阪に帰って行った。朝鮮の子は祖国に帰ることになっていたのに、朝鮮戦争が始まったので帰れなくなった、また戦争・・・。友達がいなくなって一度にさびしくなった。

中学生になって社会の授業で、国民の権利及び義務、25条「すべての国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」国はすべての生活部門について向上及び増進に努めなければならないということ学んだ。自分たちの生活程度は? 貧困か普通か? 計算方法を教わり計算して話し合った。衣食住の中で、食費が大半を占め最低に近い生活程度で、ゆりかごから墓場まで保障されている国もあるのに日本はどうなっているの? またこの時初めてドイツのワイマール憲法のことを知った。中身はほとんど忘れてしまっていたのが、2年前ドイツに見学に行っただけ詳しく知った。今までずっと、憲法9条と25条は私から離れないでいる。

(磯山 長岡美千代さん)



女性参政権 1946年



警察予備隊発足 1950年



TBSのニュースより



## はしづめ圭一の はじめの一步

### 鈴鹿市議会の 「政務活動費」は？

このところ、連日ニュースで取り上げられているのが東京都の豊洲新市場への移転問題と、富山市議会での政務活動費の無茶苦茶な使い方です。市民の方にも「鈴鹿の政務活動費はどうなっているの？大丈夫？」と、よく聞かれますので、今回は「政務活動費」について書いてみます。

鈴鹿市議会では、議員一人月5万円、年間60万円が政務活動費として交付され、会派としての支出に使われます。

私達日本共産党議員団は、3人分で年間180万円が交付されますが、平成27年度は市議会選挙後の5月からなので年間165万円で、次のような用途でした。

#### 平成27年度収支報告書（日本共産党）

支給額 1,650,000円

決算額 1,234,997円

残金額 415,003円（戻し）

#### 支出科目と金額

広報費	667,618円	広報新聞印刷費等
研修費	324,140円	研修参加費
資料購入費	191,641円	書籍購入費等
事務費	51,598円	プリンターインク代等

このように、日本共産党鈴鹿市議団の政務活動費の55%は、「すずか民報（市議団議会報告）」各号7万部の印刷代と5万部の新聞折り込み代に使っています。

なお、各自発行の石田市議「議会レポート」、森川市議「女性は太陽」、私の「話の種」の印刷代は個人持ちの自己負担で、政務活動費は、あくまでも会派としての支出に使います。

また研修費は、会派として各地で開催される研修会の参加に要する経費（旅費、宿泊費、参加費）です。鈴鹿市議会では、宿泊費はビジネスホテルしか認められていませんし、旅費も最も安いコースで計算されます。

政務活動費は、年度初めに会派の銀行口座に振り込まれ、年度末に領収書を添えた会計帳簿を議会事務局に提出してチェックを受け、残金は返納します。議会事務局での領収書のチェックは厳しいので、富山市のような白紙領収書への記載などはありえないでしょう。

より詳しい各会派別の「会計帳簿」は、鈴鹿市議会ホームページで閲覧できますのでご覧下さい。研修会の行き先なども書かれています。

<http://www.city.suzuka.lg.jp/gikai/seimu/index.html>

また、「領収書」のコピーなどは、市役所4階総務課の行政資料コーナーで、誰でも自由に閲覧できます。

（市議会議員 橋詰圭一）





## 石田 秀三の かけある記

### 介護「要支援」、現行サービスの水準は下げません

9月9日、本会議一般質問に立ちました。介護保険の改悪による「要支援1・2」の「総合事業」への移行を半年後に控え、現行のサービス水準を下げずに継続することを求めました。

答弁では、現行相当のサービスを継続する、「緩和された基準」に基づくサービスAは、訪問、通所とも鈴鹿市は行なわない、ことを確認できました。また、安上がりの「多様なサービス」への移行を押し付けることはせず、現行相当サービスと「併用」する、との方向も確認できました。

「自助・共助・公助」を福祉に持ち込むな  
県内の桑名市が「介護からの『卒業』」をムリヤリ進め、改悪の「先進地」となっていますが、かえって「鈴鹿はあんなひどいことはしないで行こう」という一致点ができました。

また私は末松市長に、「自助・共助・公助」

という役割分担論を福祉に持ち込んで、「公助」を受けにくくさせるのは間違いではないかと思いをきくと、市長は「私も同感だ、『公助』をしっかりと進めたい」と答えました。

いつになく質問と答弁がかみあった、いい議論になりました。

この日、9月9日は「救急の日」とのこと。私は質問の冒頭に、これまでうちの家族がのべ6回も救急車にお世話になったことを紹介し、これぞ「公助」の最たるもの、電話1本で駆けつけて助けてくれます。「自分で何とかしなさい」「隣近所に助けてもらいなさい」などと言いません。まして「税金を滞納してませんか」などと聞いたりしませんし、タクシーのように料金も取りません、と話しました。

いま福祉や医療・介護の分野にも、まちがった「自助・共助・公助」論が入り込んできて、どうしようもなくなった時しか「公助」を求められない仕組みが出来つつあります。介護の改悪は、次に「要介護1・2」までのサービス切り捨てを狙っています。そのうちに、救急車も助けに来なくなる事態になるかも？ そうなったら大変です。今こそ憲法25条が保障する「基本的人権」としての福祉＝「公助」を守るために、頑張りましょう。

(鈴鹿市議会議員 石田秀三)

初めて参加  
しました

初めての参加でした。広島は本当に暑かったです。タクシーの運転手さんが、“あの日も暑かったんでしょうね”とつぶやき、平和公園ですれ違った人が、“あの日、私は何も知らなかったけど、母の背中にしがみついていたの”と話してくれるなど、原爆の重さが、すぐにどんと心にのしかかってきました。

また、世界各地のたくさんの人たちが、同じ思いでこの地に集まっていることに感動を

覚えました。若い人たちや女性の発言は、未来への希望につながるものでした。

戦争体験者が高齢化の中で、その記憶を追体験し、次の世代に語り継いでいくことが、私たちの責任だと感じました。



(杉本 きみよ)

原水爆禁止世界大会広島2016

## 「武器ではなく 命の水を」見ました。

9月10日(土) 23:00~ Eテレ

人間の素晴らしさを教えてくれる。

「命」を救うという医師の仕事に純粋に向き合って、その意思を貫く生き方は感動以外の言葉が見つかりません。医療活動では助けられない人びとを前に、食糧や水が何より大事だと、医師の白衣を脱いでスコップを持ち、干ばつで干上がった砂漠に用水を引く活動を始めて15年。見事に緑をよみがえらせ60万人の暮らしを築くまでの長い道のりを収録した番組でした。

地割れするほど干し上がった大地に地域の人々と力をあわせ来る日も来る日も穴を掘り、石を積み蛇籠(じゃかご)つくって土手を築き、自分たちの手で立派な用水を築き水を引き、作物が実る農地をよみがえらせて、生活の基盤を築いていました。人々がもくもく働き15年の歳月を重ね、労働を重ね、失敗してもあきらめずに、続けることで偉大なことができるということを見せてくれました。

干ばつに苦しむ住民は家族を養うために兵士や軍属の職を手に入れる。そんなみなさん



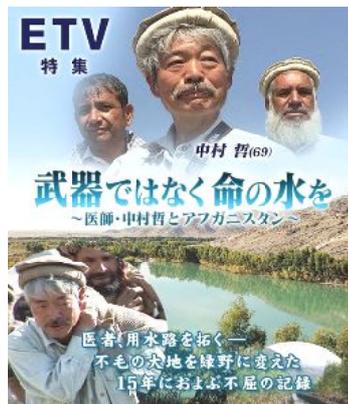
森川ヤスエの

こころに夢を

が、畑が戻り暮らしを支えられることを、喜び語っていました。「働いていると戦争なんか考えない」と。

命を守るという医療活動の一環が結果的に平和な暮らしを導いたとおっしゃる中村医師。戦争ばかりしている世界の指導者やその国の国民に届けたい。そして何より日本国民がその言葉の重みを知って、戦争へ突き進もうとする安倍政権を止める力になってほしいです。

(市議会議員 森川ヤスエ)



第62回日本母親大会  
in石川・福井に参加して

## 美人長命・才女多忙



8月20~21日  
日本母親大会に参加しました。両日も約5000人が集い、日本中で頑張っている女性たちのパワーをもらいました。

美人薄命は昔の話。人生100年の今「美人長命・才女多忙」を合言葉に元気に活動していきましょう、と挨拶された石川県女性団体協議会の常光さん。美人で才女な皆様は、我が意を得たりとばかり、大きくうなずいて

いたのも面白かったです。

記念講演は、琉球新報の島洋子さん。女性記者から見た基地・沖縄の現状をつぶさに報告されました。中でも、紹介された翁長知事の奥様の言葉が心に残りました。「夫と約束しました。辺野古に基地は作らせない。万策尽きたら、夫婦で座り込もう...と」

日本の民主主義・地方自治が試されている沖縄。私たちは、我が事としてとらえなければ...と改めて思いました。

(道家 志真子)

# 私の ふるさと

## 第4回 野崎さん

私の故郷は富山県です。北陸新幹線の開業で、故郷のあれこれを報じるニュースを目にすることが多くなりました。雪の多い土地柄、半年近くも寒さに閉じこめられる日々をどうすごしていたものやら。今にして思えば、大層厳しいことですが、生活の苦勞のない子どもには何と初雪の待ち遠しかったことか。今でも夜の気配に雪を感じると足元の心配より嬉しさの方が勝るのですから、生まれ育った「土地の力」ということを思わずにはられません。鈴鹿に暮らして30数年、町の様子には少しずつ変化はあるものの、

今でも田の景色で季節の移り変わりを感ぜられるのは、私にとってとても大切なこと。思い出の中の田は、一面れんげの春に始まり、オタマジャクシの泳ぐ青田へ、そして黄金の波打つ秋に。切り株と積み藁は雪におおわれ、ひっそりとした月の夜の雪渡り。きっと多くの人々の中にもある日本の景色。知らず知らずにもらっている「土地の力」を思い、美しい田の景色が続くことを願うばかりです。



(神戸 野崎洋子さん)

### 秋の後援会バス旅行

11月20日(日)  
杉原千畝記念館と美濃焼

お楽しみに

### 市議会傍聴記

鈴鹿市の議会に行ってきました。この日(9月9日)は共産党の石田、森川、橋詰の各議員が質問をするというので、私たち共産党後援会員も傍聴席に陣取り、論戦に注目しました。傍聴というと「ちょっと敷居が高いよね」という方もいますが、有権者たる者、一票を託した政治家がなにを発言し、どう行動するか、ちゃんと見守っていくのも大事な責任ですよ。この日の質疑では国保税値上げや介護制度の問題などが取り上げられました。切実なテーマにもとづく提案だが容易に市

は「わかった、改めます」とは言わない。「誰のための政治なの!」と、突っ込みの一つもいれなくなる。安倍政権の弱い者いじめはいわずもがなであるが、地方政治にもその波がひたひたと押し寄せてきているのではないのでしょうか。そんな中、共産党の議員の活躍は心強いかぎりです。「市民の期待にこたえてさらに頑張ってください!」と私は傍聴席から無言のメッセージを送った。



(鈴鹿市日本共産党後援会長 谷口 茂)

フクシマを見ては「もう一度行かねば」、高江を見ては「何か力になれないか」と思います。その点鈴鹿は平和でしょうか、いいえ85年前、満鉄を爆破して侵略を本気で開始した9/18の日本と今が重なって仕方ありません。鈴鹿で何ができるか考え続けたいと思います。(萩)

憲法・平和をめぐる意見を巻頭に特集しました。戦中世代、戦後世代、そして平成生まれの若者。世代を超えて平和のバトンがリレーされていきます。それにしてもアベは異常です。「私の任期中に憲法改正」なんて国民は望んでいません。改憲必要37%、改憲不要55%(朝日新聞世論調査2016年5月)。

彼のおかげで私の「平和な退職生活」が邪魔される。ええかげんに退場願いたい。

(よ)

### 編集後記